第３学年　国語科学習指導案

日　時　　平成２６年１０月１０日（金）　公開授業１
単元名　　「食べ物のひみつブック」を作ろう
教材名　　「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」
児　童　　男子　２名　　女子１０名　　計１２名
指導者　　藤原　智美

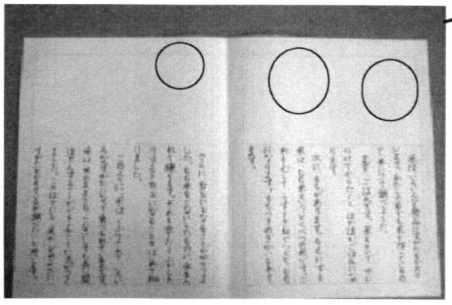
１　本単元で取り上げる主な指導事項
　Ｂ書くこと　ウ　書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
　Ｃ読むこと　イ　目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
２　身に付けさせたい力（視点１との関わり）
　○「中」の部分を事例を挙げてまとまりごとに書く力
　○まとまりごとに段落を分けて書く力
　○中心となる語や文をとらえて読む力
　○段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読む力
３　単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動（第３・４学年　　言語活動例　Ｂイ　Ｃオ）

すがたをかえて食べられている食品を調べて、調査報告文を書くこと

〔設定の理由〕
　本単元を貫く言語活動として、「教科書教材や自分の関心のある食べ物に関連する本や文章を読み、調査報告文を書くこと」を位置づけた。これは、教材文や自分が選んだ食材に関する本を繰り返して読み、中心となる語や文をとらえて、読み取ったことを報告文に書き表す学習である。従って、本単元でねらう、「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」（Ｂ書くことウ）「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」（Ｃ 読むことイ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。
〔様式〕
・初め・中・終わりに分けて文章を書き、中の部分を３つの形式段落に分け、中心となる語や文を入れて書く。
・Ｂ５の用紙で２～３ページの内容にまとめる。
・表紙・背表紙を付け、一人１冊とし、全１３巻（教師分含）とする。
・児童が書く報告文は、次のような構成となっている。

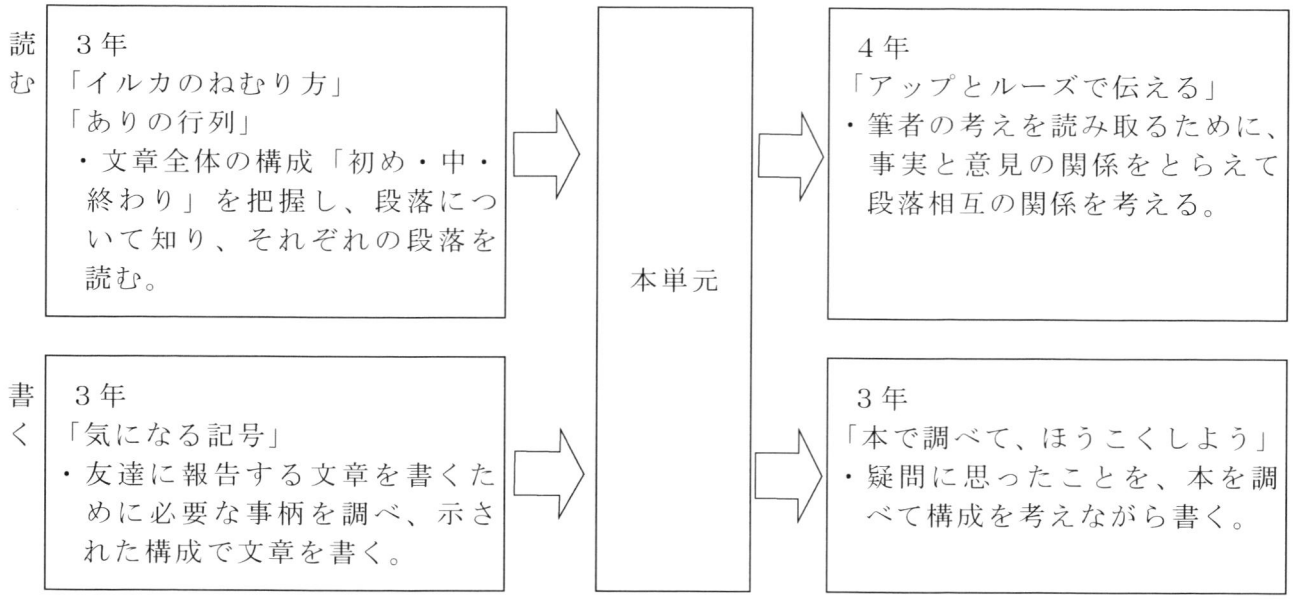
・初め・中・終わり、中を三段落とし、中心となる語や文を入れて書く。（書くことウ）
・初め（食品の紹介・きっかけ）
・中（三つの事例）
・終わり（感想）



さし絵

既習の〈報告文でよく使う書き表し方〉
・調べました。
・分かりました。
・はじめて知りました。
などの表現を使う。

〔言語活動の系統性〕



4　単元について

（1）児童について

児童は、これまでに「C 読むこと」領域の説明的な文章の学習において、2年「しかけカードの作り方」では、接続語を使い順序よく説明する文章のよさを学習した。3年「イルカのねむり方」「ありの行列」では、仮説・検証型の説明的文章の学習をした。その中で児童は段落に気をつけて読むことや、「初め・中・終わり」といった文章の構成について学習した。

また、3年「気になる記号」では、日常生活の中で身近にある様々な記号を個々の観点で選択し、調べた意味を報告する文を教科書教材で示されている構成で書く学習を行った。

これらの学習を通して、説明的文章を「初め・中・終わり」の組み立てを意識して読むことはできるようになってきた。しかし、全員で読み進めると、段落ごとの大体の内容を理解することはできるが、大事な語や中心になる文を自分で見付ける力は十分に身に付いているとはいえない。

児童の書く力は、個人差が大きい。特に、自分の考えを書き表すことを苦手としている児童が複数いる。また、段落を意識して文章を書くことも、身に付いているとはいえない。このため、機会を捉えて考えを書いたり話したりすることを継続指導している。

（2）教材について

本単元は、「読むこと」教材「すがたをかえる大豆」で読み取ったことを生かして、「書くこと」教材「食べ物のひみつを教えます」で調べたり、書いたりする活動につなげていく。

「すがたをかえる大豆」は、身の回りにあふれている大豆やその加工品について書かれており、子ども達にとって身近な内容になっている。しかし、大豆の加工食品は、見ただけでは大豆からできているとは思われないものが多く、子ども達にとっては新しいことを知り得ながら、楽しく読み進められる内容になっている。「大豆をおいしく食べるくふう」が一段落一事項で書かれ、各段落の一文目が説明の中心となる文になっている。そして、「おいしく食べるくふう」をして大豆が「何に」「どうやって」すがたを変えているかがまとめられている。また、五つの事例が接続語を使って、簡単なものから複雑なものへと順に並んでいる。「中」の部分に事例を紹介する文章の組み立ては、段落構成の内容を捉えるのに適した教材である。

「食べ物のひみつを教えます」では、興味をもった食材を選び、自分が調べたい事柄について情報収集し、集めた情報を分かりやすく報告する文を書くのに適した教材である。

（３）指導にあたって

第１次では、大豆の加工品のもとのすがたは何かを予想させることで、すがたをかえる食べ物に興味をもたせる。そして，指導者作成の「食べ物のひみつブック」を提示し単元のゴールを明確にすることで、これからの学習に児童が興味や見通しがもてるようにする。

第２次では、「読むこと」ことの学習と並行し、興味をもった食べ物の本の並行読書を位置づける。授業の中の後半１５分程度の時間を情報収集のための読書時間として保証する。この時、付箋を利用し、自分が興味をもった事柄や疑問の解決につながる文や文章に目印を付けるようにさせる。そして、段落ごとに食材の加工方法が書かれていることを確認していくことにより、第３次で書く際にも活用できる力になるようにしたい。

また、食べ物が「何に」「どうやって」加工品へとすがたを変えているか、２つの視点に沿って読み、付箋に中心となる語や文をまとめる。これは、教材文「すがたをかえる大豆」の学習の中心となる語や文を見付ける力をつけるために、繰り返し書かれている言葉（キーワード）を見付ける学習と同じである。この学習の内容が、児童の並行読書に効果的に生かされると考えられる。

第３次では、自分が選んだ本で「食べ物のひみつブック」を作る。「どうやって」すがたを変えているのかを書くこと、そして「中」の部分に、おいしく食べるくふうを３つの具体例を入れてまとめさせる。その際、教師が製作したモデル文と教科書の説明文を比較し、報告文の書き方を確かめる学習を行いたい。このことにより、自分が調べて分かった時の感動や驚きを表現した報告文にしたい。

５　単元の指導目標と評価規準

○すがたをかえる食べ物の不思議について関心をもち、報告文を書くために何度も繰り返し本を読み、調べた内容を進んでまとめようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
○書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。【書くこと】
○目的に応じて、中心となる語や文をとらえ、筆者の考えと事例など、段落相互の関係を考えながら読むことができる。【読むこと】
○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○疑問や課題を明確にしながら調べようとしたり、調べて分かったことを報告する文章に書き表したいという思いを膨らませて書こうとしたりしている。	○目的や必要に応じて理由や事例を挙げていることが、読み手にも伝わるように調査報告文を書いている。【書ウ】	○食べ物の不思議を紹介するために、中心となる語や文をとらえ、筆者の考えと事例など段落相互の関係を考えながら読んでいる。【読イ】	○文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解し、読んだり書いたりする際に用いている。【伝国イ（ク）】

６　単元の指導計画（全１３時間　　読むこと７時間　　書くこと６時間）

次	時	○目標　・主な学習活動 ☆単元を貫く言語活動につながる学習活動	評価規準
第１次	1	○身の回りの食べ物について書かれた本を読んだり、教師が作った「食べ物のひみつブック」を見たりして、関心をもつことができる。 ・加工食品を見て、食材と加工の仕方に興味をもつ。	【関】 ねらいを理解し、学習の見通しをもっている。

		・教師のモデルを見て、学習のゴールを知る。 ・食べ物について書かれた本のブックトークを聞く。 ・新出漢字の読み方を知る。 ☆学習課題を設定する。 「食べ物のひみつブック」を作ろう。	
	2	○学習の進め方や調査結果のまとめ方などについて話合い、学習計画を立てることができる。 ・自分が調べてみたい食材を出し合う。 ・取材方法を考える。 ☆学習計画を立てる。	
第 2 次	3	○教材文「すがたをかえる大豆」を読み、形式段落の中心となる語や文を見付けることができる。 ・形式段落に印を付ける。 ・形式段落の中心となる語や文を見付ける。 ・教材文を大きく３つの段落（初め・中・終わり）に分ける。 ☆教材文の構成を大まかにつかむ。	【関】 文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解して読んでいる。 【読イ】 自分の報告文に取り入れるために、中心となる語や文に着目して情報を見つけたり、食べ物をおいしく食べるくふうとその事例やを段落相互の関係を考えたりして読んでいる。
	4 ・ 5	○教材文「すがたをかえる大豆」を読み、「おいしく食べるくふう」を説明する語や文（「何が」「どうやって」）を見付けることができる。 ・段落ごとに以下の２点について行う。 ①おいしく食べるくふうに赤線を引く。 ②事例となる食品に青線を引く。 ☆「中心となる文一具体的事例」の関係をつかむ。 ※並行読書スタート ・付箋を付け、ウェッピングをしたりし、詳しく知りたいことを取材メモに書いたりする。	
	6	○教材文「すがたをかえる大豆」を読み、つなぎ言葉を見付けることができる。 ・文と文をつなぐ接続詞を見付ける。 ・段落と段落をつなぐ接続詞を見付ける。 ・既習の説明文と構成を比較する。 ☆接続詞の役割について考える。	【伝国イ（ク）】 文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解して読んでいる。
	7	○教材文「すがたをかえる大豆」を読み、分かりやすく伝えるための工夫を見付けることができる。 ・考えられる工夫を見付ける。 ※取り上げたい内容 ①接続語　②具体例の並び順 ③文末表現（です、ます）　④写真を入れている ⑤１つの段落に１つの具体例 ⑥形式段落の初めに中心となる文 ☆考えられる工夫を見付ける。	
第 3 次	8	○報告文を書くために、収集した情報が十分か見直すことができる。 ・報告文と説明文の構成や文末表現を比較する。 （モデル文と教科書の説明文の比較） ・取材メモを整理し、報告文に書く食材を選ぶ。 ☆「おいしく食べるくふう」を説明する語や文（「何	【関】 文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解して書いている。

		が」「どうやって」）を結び付けることができる。	
	9	○自分の報告文の取材メモから「初め」の文を書くことができる。 ・「初め」の文を書く。 ・文の見直し方を確認する。 ☆接続語を適切に使用して「初め」の文を書く。	【書ウ】 理由や事例を挙げて、読み手にも伝わるように報告文を書いている。
	１０ 本 時	○報告文の「中」の部分を書くことができる。 ・取材メモを生かして書く。 ・段落相互の関係を確かめる。 ☆３つの事例を入れて報告文の「中」を書く。	【伝国イ（ク）】 文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解して書いている。
	１１	○報告文の「終わり」の文を書き、友達と相互評価することができる。 ・段落相互の関係を確かめる。 ・推敲し、書き足す。 ・友達と読み合い、評価し合う。 ☆段落の関係を吟味して書く。	
	１２	○清書し、挿絵を入れることができる。 ・清書する。 ・適切な挿絵をかく。 ☆「食べ物のひみつブック」を作る。	
	１３	○製本し、読み合うことができる。 ・友達の報告文を読み、友達の書きぶりの感想をメッセージカードに書く。 ☆「食べ物のひみつブック」全１３冊完成	

7　本時の指導

（1）ねらい

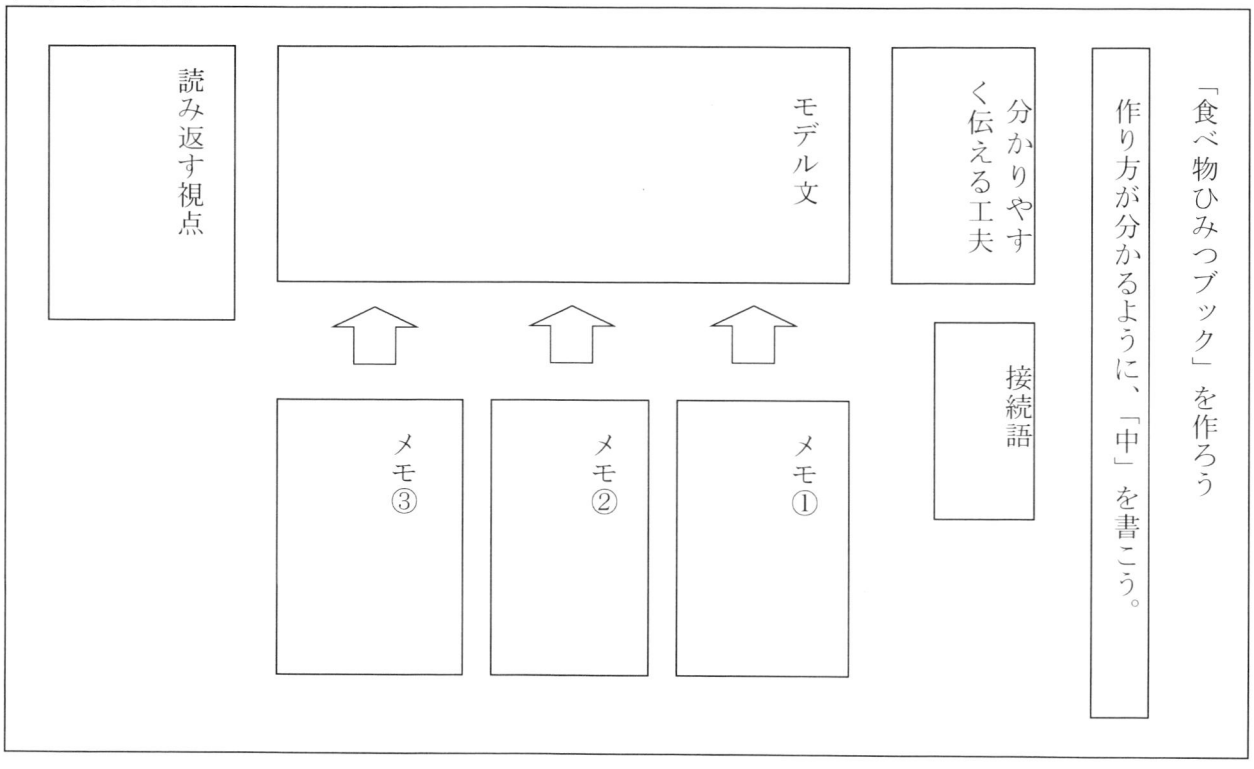
事例ごとの段落に分け、「中」の下書きを書くことができる。

（2）視点２に関わって

・取材メモから文章におこす際のポイントを、モデル文で確認する。

（3）展開

段階	主な学習活動	留意事項と評価
導入 2 分	1　本時の学習課題を把握する。 作り方が分かるように、「中」を書こう。	
展開 3 3 分	2　「中」の文章を書くために大切なことを確認する。 ＜分かりやすく伝えるためのくふう＞ ・「はじめ」「中」「終わり」の３つのまとまり ・「中」にれいをあげる ・一つの段落に一つのれい ・段落のはじめに中心となる文 ・せつ明のじゅんじょのくふう ・接続語の使い方 ・写真（絵）の使い方 ・文のおしまいは、「～です。～ます。」	・第２次でまとめた、「分かりやすく伝えるためのくふう」を掲示しておく。 ・段落のはじめに中心となる文、「～して～になる。」をモデル文で確認する。

	3　「中」の下書きを書く。 ＜読み返す視点＞ ・一つの段落に一つのれいを書いているか。 ・接続語を正しく使っているか。 ・文末は、「～です。～ます。」 ・習った漢字を使っているか。 4　書いた文章をペアで読み合う。 ＜書き終えた児童同士の評価の視点＞ ・一つの段落に一つのれいを書いているか。 ・接続語が正しく使われているか。 ・文末は、「～です。～ます。」 ・習った漢字を使っているか。 ・相手の伝えたいことが分かったか。	・取材メモを詳しく書いたモデル文を提示し、参考にさせる。 ・本時に使用したい接続語とその使い方について確かめる。 ・ワークシートは、段落の一行目をマス目にし、一字下がりが意識できるようにする。 ・書いた児童は読み返す。 ・早く終わった児童同士で読み合い、修正したり、友達の書きぶりについて評価させたりする。 【評価】 B　食品名と作り方が明確に分かるように書いている。 支援の方法 ・メモに立ち返らせて、文に書き表すことができるようにする。
終末 １０分	5　本時の学習を振り返る。 6　次時の学習内容を知る。	・読み返す視点に沿って評価し、感想を発表させる。 ・「終わり」を書き、推敲することを確認する。

（4）板書計画